

平成 27 年度 第 1 回尼崎市食育推進懇話会 議事録

日時	平成 27 年 9 月 7 日(月)午後 3 時～5 時
場所	尼崎市立すこやかプラザ 多目的ホール C
出席者	石井委員、大久保委員、落井委員、木下委員、小寺委員、佐藤委員、高谷委員、 中川委員、中西委員、中根委員、前田委員、三浦委員、由田委員 (以上出席 13 名)
欠席者	阿部委員、西村委員 (以上欠席 2 名)
事務局 拡大事務局	保健部(福井部長) 健康増進課(森田課長、長谷川係長、岡本係長、坂本(記録)) 保育指導担当(衣笠課長)、農政課(大脇課長)、学校教育課(代理 尾崎指導 主事)、学校保健課(代理 村田課長補佐)
議事	1 委嘱状交付 2 委員紹介、職員紹介 3 会長・副会長の互選について 4 第 2 次尼崎市食育推進計画について (課題への具体的な取り組み、継続した啓発の取組み) 5 10 月ひょうご食育月間に向けた協働の取組みについて 6 その他
資料	・平成 27 年度第 1 回尼崎市食育推進懇話会次第 資料 1:平成 27 年度尼崎市食育推進懇話会委員名簿、 尼崎市食育推進検討会議委員名簿 資料 2:尼崎市食育推進懇話会設置要綱、尼崎市食育推進検討会議設置要綱 資料 3:第 2 次尼崎市食育推進計画(概要版) 資料 4:第 2 次尼崎市食育推進計画案に対するパブリックコメント結果 資料 5:平成 26 年度『尼崎市食育フォーラム』ビラ 資料 6:平成 27 年度スケジュール ・委嘱状 ・第 2 次尼崎市食育推進計画冊子

開会挨拶

事務局	<p>皆様、ご多忙のところ、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。</p> <p>本会は、「尼崎市食育推進計画」に基づき、本市における食育の施策を総合的かつ計画的に推進するため、専門的な見地及び市民の立場から幅広くご意見をいただくことを目的としています。</p> <p>本日は、初めてご出席された方も多数いらっしゃることから、本市のこれまでの食育の取組みについてご紹介し、挨拶とさせていただきます。</p> <p>「食育」は、単なる「食べ方や栄養の教育」だけではなく「食を通して人間として生きる力を育む」というとても大きな意味を含んでいます。「食べる」ことは私たちが生きていくための基礎となるもので、からだをつくり、こころを満たしてくれるものです。また、それは、毎日の生活の積み重ねの中で、はぐくまれ、次世代に継承されていくものです。</p> <p>しかし、社会構造が大きく変化していくなかで、食を取り巻く環境も変化し、働き方やライフスタイルの多様化により、食生活も大きく変化してきております。</p> <p>こうしたことから、本市においても「尼崎市食育推進計画」を平成 22 年度に策定し、食育を推進してまいりました。</p> <p>その結果、食育を啓発する機会や、食育に取り組む組織や団体数は増え、活動の場も広がり、一定の成果は見られましたが、その一方で、「食育を大切に思い、次世代につなげていくことが本市の大きな課題である」ということもアンケートを実施する中で見えてきました。</p> <p>今年 3 月に策定した「第 2 次尼崎市食育推進計画」では、“実践”をコンセプトに、次年度の市政 100 周年、計画策定終了年度の 2020 年オリンピック開催年に向けて、皆様にご尽力いただきながら、各家庭、地域をはじめ、関係団体の皆様と互いに連携・協働し、総合的な食育に取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>委員の皆様には、本会において、「何を重点的に取り組んでいけばよいか」、「具体的にはどんなふうに進めていけばよいか」という視点で、それぞれの立場におけるご意見をいただきながら、計画の進行管理及び評価を行い、計画を推進していきたいと思っております。本会が活発な意見交換の場となることを期待しております。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。</p>
-----	--

議題 1 委嘱状交付(資料 1、2)

議題 2 委員紹介、職員紹介(資料 1)

議題 3 会長・副会長の互選について

議題 4 第 2 次尼崎市食育推進計画について(資料 3、4、5、6、第 2 次尼崎市食育推進計画冊子)

会長	議題 4「第 2 次尼崎市食育推進計画について」に入らせていただきます。事務局、説明よろしくをお願いします。
事務局	<p>第 2 次尼崎市食育推進計画では、現状と課題やそれに対応するための方向性を位置づけております。それを具体的にどのように進めていけたらよいか、委員の皆様にご意見をいただきたいと考えております。</p> <p>第 2 次尼崎市食育推進計画の内容につきましては、計画書を事前にお渡ししておりますが、「資料 3:第 2 次尼崎市食育推進計画(概要版)」に基づき、計画の概要について説明させていただきます。資料 3 の第 2 次尼崎市食育推進計画(概要版)をご覧ください。</p>

まず、「1. 計画策定にあたって」ですが、食育に取り組む組織や団体が増え、活動の場が広がるなど一定の成果が見られました。しかし、アンケート結果からは、この5年間で「食」に対する意識の変化や食生活の課題が新たに見えてきました。

その課題については、「2. 現状と課題」に記載しております。

1つ目の課題は、「朝食を一人で食べる子どもが増加していること」です。これにつきましては、第2次尼崎市食育推進計画冊子の17ページを併せてご覧ください。

(計画冊子 P.17「家族と朝食を食べる割合(幼児、小中高校生)」グラフの説明)

- ・幼児、小、中、高校生と年齢があがるごとに、朝食を一人で食べる割合が増加しています。
- ・「朝食を一人で食べる子どもの割合」について、平成21年から平成26年の5年間の変化を各時期で見ると、幼児は減少していますが、小・中・高校生は増加しています。
- ・「朝食を家族と一緒に食べる子どもの割合の増加」は、1日を活動的に過ごすための大事なスイッチになる朝食を食べること、さらには、家族そろって食べることでコミュニケーションをはかり、食を楽しむこと“共食”を実践することの2つをねらいとして、1次計画の評価指標として掲げていたものですが、年齢があがるにつれて朝食を一人で食べる子どもが増加しているという実態がありました。

ここで、「朝食の共食」の前に、「朝食を食べること」そのものの状況を見てみますと、計画冊子の11ページをご覧ください。

(計画冊子 P.11「朝食の欠食率」グラフの説明)

- ・「朝食の欠食率」は、幼児では、この5年間で0.4%から0.9%へ増加しています。
- ・小・中学生では、この5年間で「朝食の欠食率」は若干増加しており、全国と比較すると尼崎市の「朝食の欠食率」は、小・中学生ともに2倍以上という現状です。

このように、生活リズムを整える上で要となる“朝食”の欠食率が高いこと。また、食べていても一人で食べる“孤食”が増加していることが課題となっています。

そして、「食事が楽しいか」を子どもにきいたアンケート結果では、小学生では、「食事が楽しいかどうかわからない」と答える子が増加しており、中学生では、「食事が楽しくない」と答える子が増加していました。

また、計画概要版「2. 現状と課題」の4つ目と6つ目の課題として記載しているとおり、野菜を食べるように心がけている人は90%いましたが、必要量を摂れている人は14%であり、知識と実践に乖離があることや、食育について大切に思い次世代に伝えたいと思っている人が減少していることがわかりました。

このような課題から、「3. 計画の基本方針」ですが、生きることの基礎となる食べることをもう一度見つめ直して、大切に継承していかなければいけないということで、基本的な方針は1次計画と同じですが、第2次計画におきまして、「食を通じて豊かな心をはぐくむ」「食を通じて健康な体をつくる」「食の大切さを次世代に伝える」の3つの目標を掲げました。

この目標を達成するための具体的な数値目標を「4. 計画の目標値」として、13項目設定しています。この数値目標の設定にあたっては、子どもの欠食や孤食、大人の知識と実践の乖離、食の大切さを次世代に伝えたい人の減少という“負の連鎖”を断ち切る意味でも、食習慣の自立の時期である中学・高校生へのアプローチを強化する必要があるということで、「食事を楽しいと感じる人の割合の増加」「食育活動・学習の機会に参加する中学校、高校の増加」「主食と

	<p>主菜と副菜を3つそろえて食べることが、1日2回以上ある人の割合の増加」といった目標値を中学・高校生を対象に設定しています。</p> <p>数値目標以外にも、「5. ライフステージに応じた食育のポイント」として、妊娠期、乳幼児期、小学生期、中学・高校生期、青年期、壮年・中年期、高齢期の各ライフステージで大切にしたい食育のポイントをあげております。</p> <p>「6. 施策の方向性と具体的な取組み」では、現在、主に行政が主体となって実施している食育の取組みの柱と具体的な取組み内容を掲げています。</p> <p>なお、計画の推進に向けては、計画冊子の47ページをご覧ください。食育は幅広い分野に関わることから、多様な関係者、団体が連携し一体的に計画を推進する必要があります。本日の「尼崎市食育推進懇話会」や庁内の関係部署で構成する「尼崎市食育推進検討会議」を中心にネットワークや情報の共有化、意見交換を行いながら、取組みのプランをたて、実践し、点検、評価を行い、修正するといったPDCAサイクルをまわしてすすめていきます。第2次尼崎市食育推進計画の概要説明は以上です。</p>
会長	<p>「朝食の欠食や孤食」という問題、「実践力の向上や次世代へつなぐ取組み」の必要性、また、その課題解決に向けた取組みの方向性を事務局よりご説明いただきました。初めての委員もいらっしゃるかと思いますので、ご質問等がありましたら、お願いいたします。市民委員の木下委員は、何かご意見やご質問はございませんか。</p>
委員	<p>「食育は、生まれてから死ぬまでではなく、生まれる前から死ぬまで」なのだと改めて感じました。対象の範囲も取組み内容もとても幅広い。「朝食」の取組みは、大きな組織として皆と一緒に取組めば効果があるのではないかと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。PTA 連合会の高谷委員はいかがお考えでしょうか。</p>
委員	<p>「子どもの朝食の欠食、孤食」は気になるが、社会現象の1つとして仕方がない面もあると思います。食育について、学校給食での対応はしっかりできていると思いますが、例えば、休日など外食産業の利用頻度も増えていると思うので、そういった面からも取組みが必要ではないかと思っています。</p>
会長	<p>消費者協会の大久保委員はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>子どもの朝食欠食の話が出ていましたが、朝食をしっかり食べないと、学力にも影響するというものを使って啓発するとよいのではないのでしょうか。また、家庭での食事がしっかりしていないこともあり、中学校でも給食を導入する動きがあると伺いますが、尼崎市はどうなのでしょう。学校給食も大事ですが、学校任せではなく、本来は各家庭での食事をきちんとすることが理想だと思います。時代とともに、子育て事情も変わり、親の教育も大事だと感じます。朝ごはんを家族そろって食べることは、色々な意味で大切だと思います。</p>
会長	<p>学校給食の話題が出ましたが、教育委員会のご担当から、尼崎市の状況などをお聞かせいただければと思います。いかがでしょうか。</p>
拡大事務局	<p>学校保健課の村田と申します。私は小学校給食を担当しております。尼崎市でも中学校給食を実施していく方向で動いており、給食の実施方法等について、今後検討会議を立ち上げ、具体的に検討していくという状況です。それまでの間は、現在、中学校弁当事業として、希望する生徒へは一食350円で業者のお弁当を提供しています。</p>
会長	<p>大阪市、高槻市、枚方市など、関西でも中学校給食の導入が進んでいると聞いています。</p>

	<p>次に、事務局から「課題解決に向けた具体的な取組み、継続した啓発の取組み」について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料6の平成27年度スケジュールをご覧ください。第2次計画推進の1年目である今年度は、本日開催しております食育推進懇話会において委員の皆様からいただいたご意見を、庁内の関係部署で構成する食育推進検討会議にかけ、「課題解決に向けた具体的な取組み、継続した啓発の取組み」として、「連携・協働しながら重点をおいて取組むべきこと」と「全体を底上げするために取組むべきこと」という方向性で整理し、次回の食育推進懇話会で皆様に経過報告させていただきながら、2月頃に実施を予定しております「食育フォーラム」の内容に反映していきたいと考えております。</p> <p>それでは、この第2次計画において、「課題解決に向け、具体的にどのように取組んでいくか」ですが、「地域全体で子どもの食を支え、地域の中で食を伝える」という視点が必要だと考えております。その視点のもとで、1つは、「朝食の役割」を活かした「食育の情報発信」を継続的にやりたいということと、もう1つは、「食習慣の自立の時期である中学・高校生」の取組みの充実を図りたいということを考えております。ここで、どのように地域の中で食を伝えていくのか、なぜ「朝食」と「中高生」に着目しているのかという点について、いろいろなご意見があるかと思っておりますので、それを説明するために、資料5の昨年度実施しました「尼崎市食育フォーラム」のピラを準備しましたので、ご覧ください。</p> <p>このフォーラムは、「食べることは生きること、食ではぐくむ笑顔あふれるあまがさきを目指して」というタイトルで、料理研究家の坂本廣子先生による食育講演会を中心に、パネルディスカッションも行い、食が大切であることはわかっているけれども時間のない母親だと自称されている尼崎市長をはじめ、公衆衛生医、生産者、事業者、保育士など、さまざまな立場のパネリストから「子どもが楽しく学んだことから親も学ぶことができる。」「親だけにプレッシャーを与えるのではなく、それを少しでも軽減できるよう、地域みんなで支えていこう。」「100点満点を目指さなくても、『ええ加減』の食育が尼崎市には必要だ。」というような貴重なご意見をたくさんいただきました。</p> <p>食育コーナーでは、健康づくり推進員や在宅栄養士会、地域ボランティアグループによる五感を使って食を楽しむプログラムとして、「子どもとクッキング」やワークショップなどの体験コーナーも設けることができました。</p> <p>また、子育て支援施設による託児やパネル展示による保育所、幼稚園、学校などの取組み紹介なども行い、関係機関のご協力をいただきながら、春休みの休日にたくさんの方と一緒に食の大切さを考えるきっかけとなりました。</p> <p>ピラの裏面をご覧ください。食育を身近なこと、他人ごとではなく自身のことと感じてもらえるよう、「朝食」をテーマとすることで、「栄養補給」としての食の役割だけではなく、「規則正しい生活習慣を作ること」「子どものやる気や学力向上にもつながる」というような「食の役割」を示しております。</p> <p>また、「簡単」をキーワードに、「野菜を使った簡単レシピ」を紹介しておりますが、当日はレシピカードの配布も行いました。ここでは、単に料理を食べて欲しいということではなく、料理体験を通じて、おいしさの発見や、一緒に作り、食べる楽しさを実感すること、初めてできたことに対する達成感を味わうこと、「誰かに作ってあげたい、伝えたい」という思いにつながることで、そういった体験の積み重ねが生きる力、つまり子どもの自尊感情を高めること、そういったことを料理体験を通じてはぐくんで欲しいという思いを伝えました。</p> <p>市民の方からのご意見もたくさんいただいておりますので、ご紹介いたします。資料4の「第2</p>

	<p>次尼崎市食育推進計画(素案)に対するパブリックコメント募集結果」をご覧ください。第2次食育推進計画素案を公表し、市民の皆さんのご意見をいただいたところ、20人から34件のご意見がありました。少し抜粋して、ご紹介します。</p> <p>素案全体についてのご意見の No.1 をご覧ください。「核家族が多く、家族バラバラの食事が多い今は、いかに食に興味をもたせるかが課題。『食べることは生きること』。人間が生きていくための基礎となる。食の大切さを広めていかなければいけないと思う。」というご意見です。</p> <p>評価指標についてのご意見の No.5 をご覧ください。「幼児の朝食欠食については、親の就業時間や家庭環境等の影響があるので、食のことだけではなく、生活面も考えていく方が良いのではないか。」というご意見です。</p> <p>施策展開についてのご意見の No.6、7、8 をご覧ください。「大人になって食への意識を高めることは難しいので、子どもの時から食に興味を持てるよう食育を推進して欲しい。」「子どもよりも保護者への食育が大切。」「子どもへの食育と併せて、保護者への食育が大切。」というご意見をいただきました。</p> <p>施策展開についてのご意見の No.9～15 につきましては、「保育所、幼稚園、学校における地域と連携した取組みの必要性」に関するご意見です。</p> <p>施策展開についてのご意見の No.16～18 につきましては、「中学校、高校における食育活動を充実させ、実践力をつける取組みの必要性」に関するご意見です。特に、No.18 では、「中高生をターゲットにしている市の計画は的を得ていると思う。中高生への食育活動を充実させ、実践力をつけて欲しい。」というご意見がありました。</p> <p>施策展開についてのご意見の No.22 では、「食育を身近に感じてもらうためにも、PR 方法を検討して欲しい。(市報に食育コーナーを設ける、回覧板の活用、FM あまがさきの親子番組との連携、学校配布のプリント等)」という具体的なご意見もいただきました。</p> <p>以上のことから、この第2次計画では、「地域全体で子どもの食を支え、地域の中で食を伝える」という視点のもと、誰にとっても「朝食」が「おいしくて楽しい目覚まし時計」であって欲しいという思いと、「その生活習慣を作り、支えるのは子ども自身だけではなく、周りの大人の役目」ということから、「朝食」をキーワードに、子どもの発達段階に応じて「五感を使った料理経験」ができるような「食育の情報発信」を継続的に行う仕組みを作っていきたいと考えております。また、もう一つは、食習慣の自立の時期であるにも関わらず1次計画では取組みが少なかった「中学・高校生」の取組みを充実させていきたいと考えております。</p> <p>委員の皆様方には、「もっと他の視点が必要ではないか」「効果的に啓発や情報発信する方法があるのでは」「中学・高校生の取組みが広がるには、こんな方法がいいのでは」という具体的なご意見がございましたら、どうぞよろしくお願ひいたします。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。この第2次計画では、「地域全体で子どもの食を支え、地域の中で食を伝える」という視点で、1つ目は、「朝食の役割」を活かした「食育の情報発信」を継続的に行うということ、2つ目は、「食習慣の自立の時期である中学・高校生」の取組みの充実を図ることが事務局からの説明でしたが、委員の皆様のご意見、ご提案などをよろしくお願ひします。</p> <p>中高生のお子さんをお持ちで、ご自身も栄養士をされているということでしたが、石井委員から何かご意見をいただけませんかでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>保護者への食育が必要ということでしたが、保護者の現状は、食育にきちんと取り組んでおられる方とそうでない方の2極化がみられると思います。特に、家庭で十分に食育をしてもらえない子どもへの支援をぜひお願ひしたいと思います。子どもに料理を教えてあげたいという気持ちはあ</p>

	<p>っても、今は働いておられる親御さんも多く、忙しいため、なかなか自分ではできない、誰かがやってくれたらお願いしたい、自分は教えられないけど教えてくれるならお願いしたいという気持ちの方もたくさんおられるのではないかと思います。そういった子どもへの支援が必要だと感じています。自分で自分の食事作りができることはすごく大事なことで、子どもの自信にもつながるので、ぜひ子ども達に調理実習の機会をたくさん与えてもらいたいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。非常に熱心に食育に取り組んでおられる保護者の方もいれば、本音ではやりたい気持ちはあっても、さまざまな事情があり実際には十分にできていない保護者もいるということ。特に、十分に対応されていない子ども達へのサポートが重要だというご意見だったかと思えます。今のご意見について、三浦委員は、大学で市内の中学校と連携した食育の取組みを実施されているということですが、何かご意見やお考えはございますか。</p>
副会長	<p>確かに、各家庭の状況としては、2 極化しているのが現状だと思います。少し話が変わりますが、先程の計画冊子 11 ページのグラフが気になりました。朝食の欠食率で、高校生だけがこの 5 年で少し改善しているのですが、何か理由はあるのでしょうか。何か取組みをされた効果なのであれば、それを中学生への取組みにも活かせるのではないかと思いますので、その点について教えていただければと思います。</p> <p>そして、私が関わっている中学校での食育についてご紹介させていただきますと、食育実施前に、まずは中学生の実態を知るため、先週アンケートと骨密度測定を実施したところです。生徒達は、とても興味を持って参加してくれました。これがきっかけとなり、日々の食生活や運動生活の実践にもつながればいいなと思っております。</p>
会長	<p>今、三浦委員からお話がありましたが、高校生の朝食欠食率が少し減少していることについて、事務局から何か考察などはありますか。</p>
事務局	<p>ここ 5 年間の朝食欠食率の変化をみたときに、幼児、小中学生は朝食欠食率が増加しているにも関わらず、高校生だけが減少していることについては、1 次計画評価時にも議論したのですが、特段の取組みや明確な理由はみられませんでした。このデータは、小中学生については、市内の地域ごとの人口分布等も考慮して前後で同じような対象を選び、アンケート調査を実施しました。高校生については、前後とも市立高校にご協力いただきアンケート調査を実施したのですが、他市に住んでいる高校生も含まれており、尼崎市内の高校生の状況として、小中学生のように単純に前後比較ができないのではないかと考えております。</p>
会長	<p>保護者の現状についてのお話も出ていましたが、コープこうべ立花店の店長でいらっしゃる佐藤委員からは、尼崎市民の消費行動の実態などについて何かご意見をいただけませんか。</p>
委員	<p>直接的な中学生、高校生への取組みは非常に難しいと思います。コープでは、常々「バランスよく食べることの大切さ」を基本として、食の知識や料理レシピを発信し、バランスのよい食事のご提案をしています。このような啓発を今後も継続していくことは、とても大事だと思っています。</p>
会長	<p>中学生、高校生に重点をおいた取組みが必要であることは私自身も強く感じますが、評価がとても難しいと感じます。そこで、前段階の小学生に直接きちんとアプローチすることで、その結果として中学生、高校生での取組みにつながったり、改善がみられたりするという考え方もあるのではないかと思います。</p> <p>また、アンケート調査による評価は予算も労力もかかりますので、毎年把握できる評価方法の活用や小学校と連携した取組みなどが必要かと思えます。ここで少し、大阪市の事例をご紹介したいのですが、大阪市では、大学と近隣小学校との連携をすすめています。「防災」をテーマに、備蓄食を各家庭で備えていただくことを趣旨として、大学が小学生に出前授業を行うというもの</p>

	<p>で、当日は、オープンスクールとして小学生だけではなく、保護者や地域の方にもご参加いただきます。授業後にも、配布物などでの情報提供を定期的に行い、継続的に関わっています。このような連携事例は、さまざまな小学校で既にあるのだろうとは思いますが、単発実施ではなく、尼崎市内で、計画的に緻密に実施していけるといいのではないかと思います。小学校長というお立場で、中根委員からは何かご意見ございませんか。</p>
委員	<p>中学生、高校生へつなげていくという意味では、小学校の役割も大きいと思います。特に、小学校は6年間あり、学年に応じた食育の取組みが必要となります。動機付けとして、低学年から日々の給食を通じた食育を行い、栄養の知識なども含めた高学年での学習につなげています。</p> <p>また、保育所の取組みとして紹介があったように、畑で作って育てたものを食べるということもやっています。子どもは、このような体験活動が大好きで、すごく興味を持ちますし、自分が育てた野菜ならば嫌いな物でも食べられるといったこともみられ、教育課程の中で体験活動を位置づけて実施していくことが必要だと感じます。</p> <p>保護者への啓発は、2極化しているというご意見がありましたが、学校からおたよりなどを配布しても、反応してくれる方とそうでない方がおられます。なかなかおたよりを読んでもらえないような方にも、読んでもらう工夫、情報を届けていく工夫が必要かと思っています。</p> <p>いろいろな機関とも連携しながら、子ども達に食の大切さを意識づけていきたいと思っています。現在でも、都市魅力創造発信課と連携しパティシエに来ていただいたり、健康増進課とも連携しています。今後も、いろいろなところと連携し、各学校に外部講師も招きながら、食育指導を展開していきたいと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございます。中根委員からは、小学校での食育についてお話いただきました。もう少し低年齢の幼稚園での状況などもお聞かせいただきたいのですが、中西委員いかがでしょうか。</p>
委員	<p>幼稚園でも今は働く親が多くなり、保育所と似てきたと感じます。保護者は朝から忙しく、子どもが孤食になることも多い現状です。園で食育講座をしても、本当に来て欲しい保護者は参加しない状況があります。食育講座に参加しない方にも、せめて給食日よりなどの印刷物で子どもが大好きな給食の簡単レシピ紹介をしたり、保護者が集まる機会に給食を試食してもらったりと、日頃から小さな取組みを積み重ねていき、それが家庭での実践につながればと考えています。</p> <p>離乳食から始まり、食べられなくなったら最期だと感じているので、食べるのが大好きな子どもに育つようにと心がけて、日々親子への食育指導をしています。</p>
会長	<p>前田委員、保育所ではいかがでしょうか。</p>
委員	<p>中・高校生や大人では、食べることに興味が無い人はいると思いますが、保育所の子どもの様子を見る限り、食べることに興味、関心のない子どもは誰もいないと感じています。0歳や1歳の子どもにとって、食べることは生きることそのもので、目を輝かせて一生懸命食べています。保育所で育てている野菜なども、子ども達は毎日よく観察しています。食べることへの興味、関心は誰もが持っている人間の本能的な部分なのだと思います。そういった「食べることは楽しいこと」という気持ちを、保育所、幼稚園、小学校などでどれだけ継続させてあげられるかがすごく難しく、大事なことなのだと思います。</p> <p>保育所の中での食育を家庭にどうつなげていくか、保護者への支援は大切だと思っています。献立表やレシピの配布、給食展示など、関心がある保護者は見てくれますが、そうでない保護者もおられます。情報発信の方法が問われており、興味がない方に対してどのように情報発信をしていくかが課題であると感じます。興味がある方は、自分から情報にアクセスされますが、興味がなく、配布物や掲示物などの紙面ではなかなか見てもらえない保護者に対しては、そういった</p>

	<p>方が普段手軽に使われているスマホや携帯などのツールに情報発信していくことも必要になってくるのではないかと思います。それは保護者だけでなく、中高生にもいえることだと思います。</p> <p>そして、横の連携という面では、保育所でも地域ボランティアの方のご協力をいただきながら、菜園活動や味噌作りなどを行っています。地域とつながることで、子ども達により豊かな食の経験を提供できると思いますので、さらに地域の中で連携体制をとっていただけたいと思います。</p>
会長	<p>小学校、幼稚園、保育所の状況についてお話をいただきました。</p> <p>他にも何かご意見はありませんか。</p>
委員	<p>校医をやっている気になることは、高度肥満児がたくさんいることです。食事の摂り方、特に、スナック菓子やジュースなどを大量に摂取している子がいて問題です。特に、中高生を対象にするならば、食育の取組みの中では、そういった面での指導も必要ではないかと感じます。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>さまざまなご意見をいただきました。これらのご意見につきまして、事務局としてどのように反映させていただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。思うところは同じだなと感じながら、皆様のご意見を聞かせていただきました。全て同じ方法論では解決できないかと思いますが、行動変容を促すためにはどうすればよいかと考えていました。例えば、朝食を食べていない中高生が、朝食を食べることを自分で選択して、行動に出るためにはどのような環境があればよいでしょうか。朝食を食べると、集中力が上がる、スポーツに必要な体力がつくなどを伝え、朝食を食べることを習慣化するためのきっかけを何か提供できればいいと思います。</p> <p>今年度、高校の野球部から依頼があり、健康増進課の管理栄養士と一緒に昼食づくりを実施したのですが、顧問の先生によると、部員達はお昼にいつもコンビニでおにぎりや油物を買って食べており、体を使ってスポーツをして、これから成長していく生徒達が、こんな食事でもいいのかと気になっておられたので、一度、自分達の昼食を自分達でちゃんと作ってみようということで、女子マネージャーや保護者を巻き込み、健康増進課の管理栄養士も参加しながら、バランスを考えた昼食づくりを行いました。その影響かどうかは分かりませんが、この野球部は、その後、県大会出場が決まったそうです。</p> <p>やはり、食べるのが目的なのではなく、何のために食べるのかという目標が見えないと、なかなか行動変容には至りませんので、朝食を食べてどうなりたいのかという目標の部分の分かりやすく示していく必要があると思います。手短かに満腹感を得るといった簡単な行動に走りやすい現代において、望ましい食行動へと修正していくことは大変な作業だと思いますが、情報発信やきっかけづくり、関わり合いの中から行動変容できる人を増やしていきたいと考えています。</p> <p>小学校までは学校現場での食育活動が充実していますが、中学・高校生になると学校現場と食育を結び付けにくい現状があります。先程、アンケートや骨密度測定などをきっかけに動機付けを行い、行動変容へとつなげていくという大学と中学校が連携した取組みをご紹介いただきましたが、きちんと食べましょうという一方的な情報発信ではなく、子ども達の興味、関心が沸いたときに、将来とも結びつくところで、行動変容の動機付け、きっかけづくりを上手にしていけるといいなと思いました。</p>
会長	<p>いろいろなライフステージがあり、それぞれの多様性も増えている中で、全てに対して細かく取組んでいくことは非常に難しいと思います。</p> <p>皆様からもいろいろなお意見をいただいた中で、私がぜひ事務局にお考えいただきたいのは、きちんとしたモニタリングシステムを作ることです。計画の評価時、策定時のアンケート調査も</p>

	<p>重要なのですが、それ以外にも、幼稚園、保育所、小学校などそれぞれの場で実施している取組み状況と実施後のまとめ、教育委員会の学校保健統計調査による肥満・やせなどの動向、子ども達を診察されている校医や医師会で把握されている状況、学校現場で見られる子どもの食行動の状況など、日常的に行われている既存の取組みについてのデータのようなものを、市や本会の中で、集約、整理して、どのように優先順位をつけるべきかを検討されると、かなり絞った形で、具体的な取組みの方向性を見出せるのではないかと思います。</p> <p>そして、私の個人的な意見としましては、中高生も小学生も大事なのですが、どこから取組みを始めるのが効果的なのかと考えますと、網羅的な働きかけができるのは、関心がある人もない人も全ての人が通過する妊娠届出時や生まれた子どもの健診時ではないかと思います。そのタイミングは非常に重要で、そのときのデータ等を有効活用できればいいのではと思います。</p>
--	--

議題5 10月ひょうご食育月間に向けた協働の取組みについて(資料6)

<p>会長</p>	<p>議題5の「10月ひょうご食育月間に向けた協働の取組み」について、事務局から説明をよろしくお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料6の平成27年度スケジュールをご覧ください。「連携・協働の取組み等」の欄に、国の「食育月間」である6月や、7、8月に既に実施した食育の取組み、10月の「ひょうご食育月間」を中心として、10、11月に実施予定の連携・協働による食育の取組みなどについてお示ししています。</p> <p>兵庫県では、10月を「ひょうご食育月間」と定め、社会全体で「食」について考え、よりよい食生活を実現できる環境を育てることを目的に、「食育への関心や実践力を高める」「食べ物を通じて実りの季節を感じ、農産物への恩恵や感謝の気持ちをはぐくむ」きっかけとなるような食育を全県的に推進しています。</p> <p>本市においても、いろいろな関係機関と連携しながら、ひょうご食育月間に向けた連携・協働による食育に取組んでいきたいと考えております。1次計画の時から実施している例年の取組みを中心に、現在、準備をすすめているものを記載しております。食育の機運を高める月間として充実させていきたいと思っておりますので、この他にも、新たに委員の皆様から情報発信していただけることや今からでも一緒に啓発できる取組みなどありましたら、ぜひ教えていただきますよう、よろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>商工会議所女性部の小寺委員は、何かご意見はありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>自分自身を振り返ると、ずっと商売をしているので忙しく、分かっていてもなかなか食生活をきちんとできていないところが多々あったと反省します。街中で見かける若い人の食事マナーなどで気になることがあります。世間に食育の大切さを広めて、よりよい方向に向かっていくといいなと感じます。</p>
<p>会長</p>	<p>消費者協会の大久保委員のお考えはいかがでしょう。</p>
<p>委員</p>	<p>中・高校生にもなればお弁当は自分で作れるのではないかと思います。アンケートでも約半数の中・高生が「自分で料理を作ることができる」と回答しています。家庭での意識は2極化しているという状況ですが、親御さんも勉強ばかり教えるのではなく、「自分の体は、自分が食べてものでできている」ということをお子さんにもっと教える必要があると思います。そのためにも、子どももお父さんもお母さんも家族みんなで興味を持って、もっと料理をして欲しいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>他に何かご意見はございますか。</p> <p>また、取組みや情報発信していただけることなどがございましたら、事務局へご連絡下さい。</p>

議題6 その他

<p>会長</p>	<p>議題6のその他、連絡事項等について、事務局よりご説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>連絡事項が2点ございます。</p> <p>まず1点目としまして、市制100周年事業における食育の取組みについて情報提供させていただきます。来年、平成28年は、尼崎市の市制100周年の年にあたります。そこで、保健部では、「百寿者に学ぶ健康づくり」として記念事業に取り組む予定です。その中で、食育の取組みとしましては、市民参加型の食育イベントを実施する予定です。それに併せて、市民や事業者から100にちなんだ「安くて、簡単で、おいしい1品」を募集し、「あまの百選レシピ」を完成できればと考えております。市民が考えたレシピを、市全体で共有するしかけを作り、市民の食育実践につなげていきたいと考えています。これにつきましても、また皆様からご意見やアイデアをいただきたいと思っております。</p> <p>次に2点目としまして、次回の食育推進懇話会の予定についてご連絡させていただきます。</p> <p>本日、皆様からいただきましたご意見を、庁内の食育推進検討会議において検討し、整理しまして、12月に2回目の食育推進懇話会を開催する予定です。議題は、具体的な取組み経過と評価についてと、2月に実施予定の食育フォーラムについて予定しております。後日、日程調整等をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>これで、すべての議題が終了しました。初めての懇話会ということもあり、盛りだくさんの議題でしたが、皆様のご協力のもと、無事終了することができました。どうもありがとうございました。これを持ちまして、第1回尼崎市食育推進懇話会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。</p>